

まわでKO SO!

過去の記事は
こちら



「ありがとう」大切な一言

吃音年齢に応じた支援を

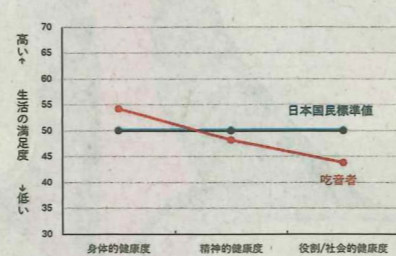
言葉が詰まって滑らかに話せないことを吃音と言います。聴覚言語障害を専門にする私が、最も得意とする分野です。

バイデン米前大統領や田中角栄元総理大臣は吃音です。大人の100人に1人が吃音だと言われており、吃音は決して珍しくありません。一般的に3歳半前後に始まり、7割程度が小学校入学前に消失します。計算すると幼児期には20人から30人に1人が吃音ということになります。

吃音は世界中で多くの方が悩んでいるのに原因がわからず、効果のある治療法や薬もありません。話し方の訓練で治ると思

っている人もいますが、消失させる訓練は残念ながらありません。このようなことを聞くと、落胆されるかもしれませんが大丈夫です。吃音を大ごとにしないうで自分らしく生きる方法を、研究成果を踏まえてお話しします。

200人の吃音の大人を対象に生活の満足度(QOL)を調査して一般の人と比較した=グラフ。一般の人の数値を50点に換算=ところ、身体的健康度や精神的健康度に比べて、「役割/社会的健康度」の数値が低いこ



とが分かりました。これは社会の役に立っていないと感じていることを示しています。話をする際に相手を待たせて悪いと感じる経験の積み重ねが、自分は役に立たないという評価につながっていると考えられます。役に立たない、必要とされない人間だと感じることはとてもつらいことです。吃音の問題は、話



村瀬忍さん

し方よりも、こうしたつらさなのです。

では、私たちに何ができるでしょうか。まず、吃音に気を取られないで、良いところ、特に役立ち感に目を向けてください。人と比べる必要はありません。日常で「ありがとう」「助

かるな」と声をかけられる場面は山ほどあります。そんな場面を探し、見つけたらすかさず、言葉で価値づけることです。周囲に対して申し訳ないと思っっている人にとって、大事な一言になるはずですよ。

また、吃音はオープンにすることが大切です。話題にすると本人が気にして悪化すると考える人もいますが、見て見ぬ振りをしていても治りません。むしろ、何でもないこととしてオープンにできれば楽になります。オープンにすることで同じ吃音の仲間に出会えたら、もっと前向きな気持ちになれます。

年齢に応じた支援が必要ですよ。ご心配な方は園や学校、市町村の相談窓口、病院などに相

談することをお勧めします。岐阜大学教育学部附属特別支援教育センター=058(293)2350 =でも相談を受け付けています。

むらせ・しのぶ 教育学部特別支援教育講座教授。専門は聴覚言語障害学。シラキュース大学大学院、岐阜大学大学院医学系研究科修了。博士(医学)。



著書に「子どもがどもっていると感じたら 第2版」(大月書店出版)=書影=がある。

